

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.9

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
http://www.ict.ne.jp/~hakua/
E-mail：hakua@ict.ne.jp

作家 岸宏子さん

資料を文庫へ

上野在住の作家岸宏子さん（阿山28回）が長年にわたって書かれた原稿やドラマの台本389点が同窓会文庫に寄贈された。6月3日、同窓会館で左橋佳三同窓会長と渡辺祐治校長に岸さんから目録が手渡された。岸さんは「ずっと手放せずにいた作品が、縁のある同窓会に納められることはとても有難い。」と語られ、左橋会長は「貴重な資料をいただいて嬉しい。今後、広く顕彰していきたい。」とお礼を述べられた。

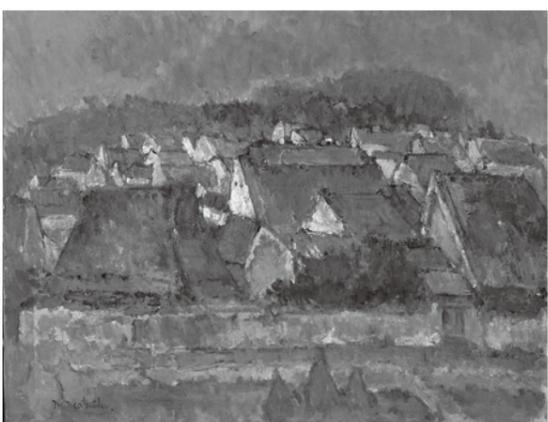


▲左橋会長(左)、渡辺校長(右)と語る岸さん

戦後しばらくして、自費出版した小説を大阪の作家、藤沢桓夫氏に送ったところ、脚本を書いてみないかという誘いもあって放送作家の道が開かれていった。以後、ドラマの脚本を次々に書きラジオで放送された。NHKラジオの日曜名作座や東海ラジオの連続歴史小説、NHK銀河テレビ小説などよく知られた番組でも多くの脚本を担当した。

小説では、「ある開花」(65年)が、「喜劇 夫売らいでか!」(花登筐 脚本)として舞台化され、映画でも「喜劇 夫売ります!!」(瀬川昌治 監督)として上映、テレビドラマにもなった。伊賀の組ひもの

松生正彦さんの絵画を寄贈



▲「香具山の見える村」

洋画家の故・松生正彦さん(中30回)が残された油絵のうち2点が、ご子息の安彦さん(高13回)から上野高校同窓会に寄贈された。いずれも20号の作品で「ローテンブルクの城門」と題するヨーロッパの風景を描いた作品と「香具山の見える村」と題する飛鳥香具山を描いた作品。校長室や同窓会館に交互に展示することになっている。

松生正彦さんは、鳥ヶ原村出身で、上野中学、三重師範学校を卒業後、伊賀の中学校で美術の教員として勤めながら二紀展に51年間も出展を続けられた。また数多くの個展を開き、日本各地はもちろん、ヨーロッパの風景も紹介された。

緑ヶ丘中学校校長を最後に教職を去られ、県展や市展の審査員を務めるとともに、美術愛好家の指導にも精力を注がれた。また、東京の尾崎行雄記念館から肖像画を依

愚問に「好きでしたね。若い頃は世の中の人達の考えや風潮に違和感を覚えて、反発する気持ちもあったのでしよう。書くのは家の者達が寝静まってからでした。」というお答え。

名古屋に呼び出され、ホテルに缶詰になって朝まで1本(原稿用紙約50枚)仕上げよ、などという仕事も度々あった。一室に閉じこもってと思いつめていて、男が一人ポーツと現れ「私を書け」、女が一人「いや私を書いてくれ」と現れたという。

作家として数多くの作品を書いた中で日本の古典文学では、犯罪者有り、老若男女様々なタイプの人間が登場する「今昔物語」の幅広い世界が好きだそう。

「作品は我が子のような分身のようなもの」と言った人がいたが、寄贈された資料について、「作品が好きだと思ふ方々には読んでもらえると嬉しいが、どう活用するかはご自由に」とのこと。

六十年以上、一つ一つの仕事をやりこなしてきた岸さんの姿勢に、身の引き締まる思いがした。同窓会文庫では、寄贈資料を整理して順次公開展示することになっている。

- 岸さんの受賞・受賞歴
紫綬褒章(90年)
勲四等宝冠章(95年)
芸術祭奨励賞(68年) (NHKラジオ「裸の功徳」)
芸術祭大賞(70年) (CBCラジオ「ブルムハウス」)
ギャラクシー賞(77年) (NHK銀河テレビ小説「栗箱」)
NHK放送文化賞(95年)

頼されたり、新聞の挿絵や郷土三重や伊賀に関わる作品を発表し続けられたりした。残された多くの作品は商工会議所や伊賀市内の小中学校に寄贈されたが、安彦さんのご厚意で、本校にも飾ることができた。

今鷹瓊太郎さんの書写「万葉集」も

元上野高校教諭の故・今鷹瓊太郎さん(中14回)が書写した「万葉集」をご子息の聡さん(高10回)から上野高校同窓会に寄贈された。瓊太郎さんが万葉仮名を一字ずつ丁寧に毛筆で書写して和綴りの冊子43冊にまとめたものと「伊勢物語」3冊。父親から譲り受けていた横須賀在住の聡さんが手作りの木箱に入れて寄贈された。なお、瓊太郎さんは生前に「阿含経」を書写した冊子181巻も寄贈されている。

同窓会会長 左橋佳三



上野高校同窓会の皆様方には、平素より同窓会に對しまして、物心両面に亘り、ご支援、ご協力を頂き、また、年会費につきましても、多くの方々にご賛同を賜わり、お蔭様で同窓会の予算執行も無難に推移しておりますこと、大変有難く存じております。

さて、上高同窓会も、ご健在な会員様だけでも、優に三万名を超える大きな組織となっております。上に、母校の伝統と校訓であり、また、「自強不息」の精神を受け継ぎ、地元の方々には勿論のこと、地元を遠く離れ各地でご活躍されておら

れる方々にも、夫々の地域、お立場でもって同窓会の活性化にご尽力頂き、心から感謝申し上げます。

一方、一昨年から続く不安定な経済情勢をはじめ、世界各地での地震や、火山大爆発の発生が、一層不安を増大させている現在、一日でも早くこうした不安を解消すべく施策を講じて貰いたいと強く願っております。

次いで同窓会本部の事業につきましては、例年通り、横光先輩を偲んでの「雪解の集い」或いは「ふるさと伊賀再発見」と銘打った講座の開催、また、各支部様におかれましては、支部独自の会報の発行等の事業に積極的に取り組んで頂き感謝申し上げます。

なお、会報の発行にご尽力頂きました方々に心からお礼申し上げますと共に、今後、同窓会に對しまして一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ

学校長 渡辺祐治



同窓会の皆様には、ますますご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は母校の教育振興のためにご理解とご支援を賜り、誠に有り難うございます。さて、最近の本校の状況について簡単に報告させていただきます。

マンドリン部と放送部が全国大会に出場しました。また、写真部、書道部、新聞部は、全国高等学校総合文化祭に出展して文化連盟賞や優良賞を受賞しました。運動系クラブの活躍状況が少し寂しい結果となりましたが、今後の奮起を期待したいと思います。

本校の恒例行事であります月ヶ瀬マラソンの女子ゴールに同窓会より横断幕を寄贈していただきました。これまで、男子ゴールには優勝者のOBから寄贈された横断幕がありました。来月2月の月ヶ瀬マラソンから女子ゴールにも横断幕を飾り、健闘をたたえることができるようになりました。同窓会の皆様には、この紙面をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

皆様には、今後とも変わらぬご協力とご支援をお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

伊賀弁の小説が誕生 上高コンピで「忍者ルネッサンス！」

作者・倉阪鬼一郎さん（高28回）と編集者・藤田明子さん（高51回）

ミステリー作家の倉阪鬼一郎さんはこれまでに伊賀を彷彿とさせるような小説も書いてこられたが、今春、ついに伊賀を舞台に忍者を主役にした『忍者ルネッサンス！』（出版芸術社）を上梓された。きっかけは、『百奇譚の夜』などの倉阪作品を出している出版芸術社の編集者からの伊賀を舞台にした本を、との提案。その提案をした編集者はなんと上野高校の後輩にあたる藤田明子さんだった。その藤田さんに『忍者ルネッサンス！』刊行のいきさつと本への思いを聞いた。

藤田さんは、元々本好きで倉阪さんが上高OBであることを知っていたそう。出版芸術社には自由な社風を気に入って入社した。小さな出版社で編集だけでなく、企画や装丁なども任されており、満を持して倉阪さんに伊賀の人が読めば更に面白くなる徹底した伊賀の忍者エンターテインメント小説をお願いした。



▲東京支部新卒業生歓迎会で「忍者ルネッサンス！」を紹介する藤田さん

丈夫だろうか、と心配したそうだが、上司は面白がって自由にやらせてくれた。内容は倉阪さんの伊賀への徹底した取材ぶり、折り紙つきだが、藤田さんは装丁にも拘ったそう。今まで倉阪さんの本にはなかったピンクを基調にして、登場人物を忍者戦隊に見立てるなど、なるべく書店で目立つように工夫した。装丁には他にも色んなところに伊賀を紛れ込ませてあるそうで、皆さんにもこの本から藤田さんの遊び心を楽しんでいただけたらと思った。また、伊賀の書店では確実に置いてもらえるように、自分が高校時代によく通っていた井筒屋赤もん店や岡森書店に直接かけあつたとか。若いながらも、しっかり者の藤田さんの社長だそう。社長の趣味である碁の好きを受けられる機会に倉阪さんら推理作家や評論家の人に会い、碁を楽しみつつ、経験談を聞いたりして本を面白く思わせる方法などをしっかり吸収しているようだ。

編集者としての藤田さんから見た作家・倉阪鬼一郎の作風の幅広さは、作曲やマラソンなどの多趣味からきているのではないかと、その広い器が今回のエンターテインメント小説に繋がったのかもしれない。

（取材・松本ひとみ 高52回）

「忍者ルネッサンス！」
著者の言葉
（出版美術社のホームページから）
方言を駆使した作品をというお話だったので、登場人物はみな伊賀弁をしゃべります。また、ご当地小説ですから、メインの忍者は申すに及ばず、芭蕉さん、伊賀線、田楽、かたやき、伊賀肉、いがグリオ、バナナ加工、その他もろもろの出すべきものはすべて出したつもりです。（組紐を忘れたことにいま気付きました。）～中略～都落ちした作家の蔵野尚武はありえたかもしれない等身大の私です。～中略～おもしろうて最後にほろりとする！そんな喜劇のエンターテインメントの王道を目指した小説です。〈倉阪鬼一郎〉

倉阪家から50作品 同窓会文庫へ

「忍者ルネッサンス！」で話題になった倉阪鬼一郎さんは、怪奇小説から出発し、本格ミステリー、SF系、ユーモア系、翻訳、句集、歌集と幅広い作品を発表している。このほど伊賀市在住の父親の武雄さんを通じて初期の作品『地底の鰐、天井の蛇』から最新作の『薔薇の家、晩夏の夢』まで50作品を同窓会文庫に寄贈された。学校図書館で在校生も閲覧出来るようにする予定。

お台場で忍術ショー 東京支部が応援に

毎年4月1日からゴールデンウィークまで、伊賀上野では「伊賀上野NINJAフェスタ」が開催されている。「春の陽に忍者になろう伊賀上野」と題して、忍者コスチュームに変身して“まちなか”に設けた7つの道場をめぐるイベントは全国的に人気を博している。本年2月20日・21日両日に、その事前キャンペーンを東京お台場で展開することとなった。「お台場をニンジャックせよ」の指令のもと、伊賀からもバス2台で応援部隊が乱入したが、わが上野高校同窓会東京支部の面々が今西支部長はじめ、大挙して激励に駆けつけた。お台場のキャンペーン会場は忍者だらけになりおおいに盛り上がり、伊賀上野の情報発信は見事大成功となったのであった。



▲東京支部長の今西さん

「宇宙服に組みひもの技術」 NASAで研究発表

中学教諭・藤山秀公さん（高32回）

藤山さんはNASAが世界中に募集した審査で難関を通過し、3名の日本代表の一人に選ばれたのだ。そこでは、若田光一さんや山崎直子さんらの宇宙飛行士と、壮大な夢について語り合った。

彼は伊賀をアピールする忍者衣装を身に纏い「宇宙開発に活か

されている繊維技術」のテーマで、伊賀の伝統工芸である組みひもが宇宙服の繊維技術に応用されていることを実演を交えて研究発表した。今では、コンピュータが簡単に強度計算をしてくれるが、その基本構造は先人達が経験の中で培ってきたものであることをアピール。生徒たちが授業で製作した

「ここに至るまでには彼の長い取り組みがあった。17年前から生徒が組みひも作りの台を作り、蚕を育て、繭の糸を取りをして、その糸で組みひもを織り上げる授業を展開してきた。そして、この繊維技術が宇宙服やロケット、航空機を製作していくための基盤となっているのだと教えた。まさに、土壌から宇宙まで上下に広がる教育である。

十年前には、『宇宙航空研究開発機構（JAXA）の前身「宇宙開発事業団（NASDA）」の種子島宇宙センターとタイアップして、上野市内の子供を対象に『夏休み親子宇宙開発体験教室』を開いた。百名が集まった中

（取材・米岡広美 高32回）



◀「次は宇宙飛行士による授業を」と語る藤山さん

で生徒たちが、目を輝かせ、宇宙開発部員の人にレベルの高い質問をする姿を見て手応えを感じ、中学校の授業に取り入れる事を決心する。そして、昨年、開校した城東中学校に転勤。JAXAの東京事務所に向いて宇宙開発に繋がる技術教育の分野で授業の支援を依頼。技術や総合学習の授業で、宇宙をテーマにした授業を実施、予定の9回のうち3回を終了した。今後は、「ハードルは高いが、宇宙飛行士を招いての授業を実現させたい」と抱負を語る。

一方、前任校の崇広中学校時代には人権学習の一環でカンボジアを訪ねた。多くの子供達が十分な教育を受けられない状況の中で、現地の施設の子供達と交流できたことは、世界中で教育していきたいという彼の夢に大きな影響を与えた。

彼は、授業を通して大きな夢を持つ子供を育てたいし、自分も夢に向かって努力し続け、子供たちの夢を支援していける教師でありたいという。

これまで少しずつ前へ進んできた事が、彼の思い描いた教育の形となって、今も発展し続けている。「地道に頑張っていれば、いつも応援してくれる方々が側にいて、支え見守ってくれる。そこから道は開けてくるもの」という。

夢のある授業、これが今の教育の現場に一番必要なものだろう。

自著の寄贈を紹介

同窓会文庫へご寄贈いただいた図書

- 『歳月の葉』（私家版） 貝澤治範（高14回）
- 『釜山港物語』 北出 明（高13回）
- 『文化による地域づくり』 高島 博（高16回）
- 『地域づくりの文化創造力』 高島 博（高16回）
- 歌集『寂寂』 葛原郁子（高5回）

ご著書の惠贈のお願い

近年、著作物を出版する卒業生の方がたくさんおられます。卒業生の皆さんのご活躍は在校生にとって大いなる誇りであり、励みでもあります。同窓会文庫に収集し、永く保存し、後に続く者の心の糧にしたいと考えています。

つきましては、著作物を出版されましたら、本校同窓会文庫にご惠贈くださいますようお願いいたします。

宛先は
〒518-0873 伊賀市上野丸之内107
上野高等学校同窓会文庫
電話 0595-21-2552 ・ F A X 0595-24-1744

郷里を「日本の里100選」に

奈良県室生・北森義卿さん（高12回）

大学で品種改良を学び、郷里に戻ってチョコレートコスモスなどの花と野菜を品種改良している奥隆善さん（伊賀市千戸）。立ち並ぶ3棟の温室と研究室の中では新品種の開発が進む。既に8種類の登録品種を所持。研究のきっかけは中学の先生

大山田中学校の時、理科の先生から実験の手引き書のコピーを手渡された。実験が好きで自然に恵まれた環境だったのが植物栽培を始めるきっかけになった。高校では生物部でバイオ技術を使ってランを育てた。下校の途中には産業会館のオクザワ種苗で栽培のコツなどを教えてもらった。これが進路を決めた。



▲高台から集落を見渡し抱負を語る北森さん

眼下に箱庭の様な名張市南部の町並みを見下ろす奈良県宇陀市室生区深野。わずか36戸が山肌斜面に点在するこの集落が昨年、「日本の里100選」に選ばれた。また、海外の若者を一般家庭にホームステイさせる活動も続けている。

その仕掛け人がパワフルな六十代、北森義卿（よしあき）さんだ。名張中学を卒業した関係で上野高校に進学。下宿して通学した。Uターンして祭の復興から着手

大学を卒業後は、勤めも生活も大阪だったが、25年前、父親の他界を機に家族でUターンした。そこで気付いた

めるきっかけに。チョコレートコスモスの再生に

進学は、農学部を決めて、一度関東に行くべきだと思ったので、千葉大学園芸学部を選んだ。園芸学部は松戸市にあり、「地域で農業を広める人材の育成」という実学を教育方針としていた。在学中、友人と市内で花屋を始め、チョコレートコスモスを切り花で売った。色はもちろん香りもチョコレート。調べてみると野生のものは絶滅したといわれ、栽培も難しいという。今、出回っているのはたった一株から殖やされたと言われている。自家結実しないので、挿し芽で増やすしかなかった。そこで、この種を採れるようにしようと研究を始めた。

研究は難航し、試行錯誤しているなか、栽培する畑で考え込んでいると、ふと子房がふくらんでいるのを見つけた。それをバイオ技術を活用してフラスコで培養すると大きく成長し、花が咲き始めた。それはなんともいえない赤い花だった。研究をすすめると、それはキバナコスモスが支配してできたことが確認できた。球根ができるので、

たのが、当屋だけが関わる村祭り。まず取り組んだのは、村人全員が楽しめる祭の復興だった。

が、ことを始めるには人手がいる。そこで、北森さんは「深野○○会」を立ち上げた。「○○」は何でもできる会のつもりでいまも「○○」のまま。現在の会員は19人だが実働には心強い奥さんたちがいる。

当初は、特に長老たちの意見をまと

メリア属と考えられていたがコスモス属に含まれることが証明された。

その後も続々と異なったタイプのチョコレートコスモスを開発。国内では兵庫、長崎、福島、山形の生産農家で栽培してくれているが、イスラエルや、ヨーロッパ、アメリカでも栽培してもらっている。今年のパレンタインデーには新聞にも紹介され、読んだ人が買いに来てくれた。パレンタインデーには、「チョコレートコスモスがおしゃれだ」と言われるようになったら嬉しい、とのこと。

（取材・番條克治 高21回）

めるには骨が折れたが、何度も話し合い、今では祭の日には他所に出ている若い世代も帰ってきて地域全員が集う場となっている。

次に、取り組んだのは、ソフトボール部の結成と集落の美化。杉の間伐、ササユリや桜の植樹、ピオトープ（野生の生き物の生息場所）作り、これからは蜜の育成にも力を入れていきたいと、北森さんは目を輝かせている。

山の斜面を埋め尽くすササユリの鑑賞会に京阪神からも約50名を招く。アイデアは次々に生まれた。里山検討会を立ち上げ、国の補助で炭焼窯を再生した。それぞれの事業別に責任者を決める手法が成功の秘訣だとか。

北森さんは、自然との共存の他に、人と人とのつながりを大切にしている。関西のNPOに呼びかけてフォーラムやミーティングを招へいし、奈良県立大学の学生も、祭りの手伝いや合宿で訪れるようになったという。

更に、5年前、米国のコロラド州に

開発を軸に直接販売にも力を

近年、農業は開発と生産が分離され、生産は、土や肥料、種などを買って、マニュアル通りに栽培すれば、誰でも同じものが作れ、天候に左右されない品種もできている。しかし、そんな作業だけではパート並みの収入しか見込めない。農業をしたいという若者もいるが、自分を癒すのが目的では長続きはしない。農業はサービス産業で、他人を癒さなければ経営が成り立たない。新しいものを作り、人に楽しんでもらえることが目標であり喜びだという。今は開発を軸にしながら販売のためのマメゲンバイナズナの切り花や葉ボタン、野菜苗を栽培している。

また、農家は植物学者でもあるべきで生産者が直接客にその花の特徴や来歴などを説明して、それによつた物語を楽しんでもらうことが大切だと考えている。

春と秋に直売もする。花や野菜について客と話すのが楽しみだという純朴で穏和な若青年。今後も心癒される花の開発が期待される。

（取材・米岡広美 高32回）

「共に」一步を踏み出せば、『新しい田舎の時代』がやってくる。希望を持って踏み出せば、明るい朝日が差し込んでくる。北森さんが以前書かれた言葉である。取材を終えて、終始にこやかに語ってくださった北森さんの笑顔の向こうに、たくさんの人達の笑顔が見えた気がした。

（取材・米岡広美 高32回）

帰郷して世界へ発信

チョコレートコスモスを開発

園芸家 奥 隆善さん（高47回）

その後も続々と異なったタイプのチョコレートコスモスを開発。国内では兵庫、長崎、福島、山形の生産農家で栽培してくれているが、イスラエルや、ヨーロッパ、アメリカでも栽培してもらっている。今年のパレンタインデーには新聞にも紹介され、読んだ人が買いに来てくれた。パレンタインデーには、「チョコレートコスモスがおしゃれだ」と言われるようになったら嬉しい、とのこと。

（取材・番條克治 高21回）



▲花を手に夢をふくらませる奥さん

域の音楽活動の発展にも貢献されています。既に長い歴史をもつ市民吹奏楽団「伊賀シンフォニックアカデミー」や退職された2003年設立の「伊賀コミュニケーションオーケストラ」で指導的役割を担っておられます。後者は、オーケストラを伊賀地域でも誰もが演奏できる場という趣旨とのこと。また、上野市の市制60周年記念の行進曲「いがうえの」の作曲もされました。

菅生先生の音楽との関わりは、……実は、生家は真言宗「勝因寺」伊賀市山出。「お坊さんの子がどうして西洋音楽に？」……が、お寺には様々な「楽器」が物心がつくころから身近に。本堂の木魚に加えて保育園でもあったのでオルガンが、さらに県の指定文化財である「小天狗の梵鐘」も。叩いた時にB（ベエー）の音が鳴り、C（ツエー）の音が余韻に残

懐かしの先生をたずねて

花二酔ヒ 風二酔フ 心で

菅生和光先生（高12回）

菅生和光先生は、上野高の鐘の音に子どもの頃から親しんでいた。在校の8年間、吹奏楽部などの顧問をされ、県内外で幅広く音楽活動や指導に携わってこられた方として有名です。上野高校では創立100周年の2年前から3年連続で、吹奏楽部とギター・マンドリン部との合同ステージ、「ホップ・ステップ・ジャンプコンサート」を実現されました。

先生のもう一つの顔である「お坊さん」としては……退職後、勝因寺住職の演奏会はその後、「定期演奏会」として両部に受け継がれ、今年で15回目を迎えました。

前任校の木本、名張、名張梗が丘の各高校でも校外での「定期演奏会」を創設されました。また、高校での指導だけでなく、地域の音楽活動の発展にも貢献されています。

現在地元で、市場寺、妙覚寺の各住職も兼務され、同時にこれまでと同様に「伊賀シンフォニックアカデミー」の正指揮者、「伊賀コミュニケーションオーケストラ」の代表としてもパワフルに活動されています。

勝因寺の檀家でもある書道家の榊山さん（中40回）の「花アルトキハ花二酔ヒ 風アルトキハ風二酔フ」という言葉がとても好きで、その言葉通り「風にさらわす、人を押しつけてま」とは思わないが、声がかかるうちはまだまだ色んなことに挑戦していきたいと語ってくださいました。

（取材 石田ゆかり・松本ひとみ 高52回）



勝因寺ゆかりの山伏、小天狗清蔵が寄進したと伝えられる梵鐘を背に

深緑に抱かれた天守閣を背景に上高生が卒業アルバム写真撮影に集合している。シャッターが落ちる度に少しずつ背筋が伸びてゆく。レンズを見つめる視線の先にはこれから越え行く試練を捉えていることであろう。

卒業生は後輩への想いを残していく。3月15日、今年合格を果たした卒業生から新3年生に受験の心構えやアドバイスを行う講演会が開催された。「過去問はあまり早い時期に解かない方がいい。」といった具体的な話から「勉強を頑張ったご褒美に、好きなことをやりながらやる気のアップを図った。」など、ひとときわ涼々しい先輩の一言が後輩たちの胸に響く。

8月1日から第34回全国高等学校総合文化祭が宮崎県で行われる。かるた部、書道部、写真部、新聞部が参加する。5月5日に行われた三重県小倉百人一首かるた大会で4位だった若名寿岳君が三重県選抜チームの一員として出場する。「今回の大会に向け構え方や攻め方を変えたがまだ結果は出ていない。他のメンバーと決勝を目指したい。」と意気込みを語る。

7月18日から27日にかけて、英国短期語学研修が実施される。昨年は新型インフルエンザの中止された2年ぶりの実施となる。1年生13名、2年生15名の計28名が参加の予定である。創立百周年事業として始まったこの事業も年々参加者が増加し、20日にはシェイクスピアゆかりの地「ストラットフォード・アポン・エイボン」を訪れ、キングエドワードVI世高を訪問する。外国文化を肌身で実感し今後の学習に生かしてくれるものと期待される。

【女子ハンドボール部】県総合体育大会5位 【弓道部】県総合体育大会女子団体8位 【水泳部】県総合体育大会100m背泳ぎ4位、200m背泳ぎ4位 【将棋部】第46回全国高等学校将棋選手権県予選3位 【吹奏楽部】第22回管楽器・個人重奏コンテスト本大会アルトサクソフォン独奏優秀賞、クラリネット独奏優秀賞、優秀伴奏賞、三重県吹奏楽連盟創立50周年記念特別表彰優秀団体賞 【放送部】第57回NHK杯全国高校放送コンテストアナウンス部門優秀賞、朗読部門優秀賞 【写真部】第30回夏季写真コンテスト銀賞、銅賞 【ギターマン・ドリン部】第40回ギターマン・ドリンフェスティバル出場（7月25日）（高32回 留水裕也）

平成20年度（平成20年9月1日～平成21年8月31日）三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支決算書

Table with 2 columns: 1. 収入の部 (Income) and 2. 支出の部 (Expenditure). Includes items like 前年度繰越金, 売上高, 雑収入, 会議費, 通信運搬費, etc.

平成20年度（平成20年9月1日～平成21年8月31日）三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 1. 収入の部 (Income), 2. 支出の部 (Expenditure), 対予算比 (Ratio to Budget), 対前年度比 (Ratio to Previous Year). Includes items like 前年度繰越金, 入会金, 年会費, etc.

平成21年度（平成21年9月1日～平成22年8月31日）三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 5 columns: 1. 収入の部 (Income), 2. 支出の部 (Expenditure), 対前年度比 (Ratio to Previous Year), 対前年度比 (Ratio to Previous Year), 対前年度比 (Ratio to Previous Year). Includes items like 前年度繰越金, 入会金, 年会費, etc.

平成21年度（平成21年9月1日～平成22年8月31日）三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支決算書

Table with 4 columns: 1. 収入の部 (Income), 2. 支出の部 (Expenditure), 対前年度比 (Ratio to Previous Year), 対前年度比 (Ratio to Previous Year). Includes items like 前年度繰越金, 売上高, 雑収入, etc.

ご寄稿のお願い
各支部を始め各回の集まり、各部のOB会などのご報告やご案内の原稿を事務局までお寄せ下さい。なお、なるべく多くのグループの情報提供ができれば、600字以内でまとめていただきますようご協力をお願いいたします。写真は、多人数の集合写真もやむを得ず縮小して掲載致しますのでご了承ください。（会報委員会）

会費納入のお願い
上野高等学校同窓会は、毎年春の卒業生による新入会員入会金と全会員にお願いしております。今年度の会費（一口2,000円）の納入につきまして、会員皆さま方のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

平成22年度(2010年) 総会のご案内

とき 平成22年10月17日(日)
14:00～ 記念講演 15:00～ 総会 16:00～ 懇親会(会費3,000円)
ところ 上野フレックスホテル
伊賀市平野中川原544-2 ☎0595-21-3111

記念講演
講師 関西テレビ放送アナウンサー 岡本 栄さん(高21回)
演題 「伊賀のこれから」

プロフィール
早稲田大学卒業後1974年関西テレビ放送入社。報道・情報番組を中心に担当。現在はFNNスピーク(月曜日担当)、FNNスーパーニュースで活躍。ニュース番組の他「シリーズ京都国立博物館」、「骨董チャンネルII」などの番組を担当。伊山文庫を主宰し、特に、伊賀にゆかりのある作家・作品について収集、研究をしている。

懇親会アトラクション
一絃琴のしらべ
一絃琴奏者 弘誓山本願寺 住職 荒井眞道氏・尺八奏者 牧原 一路氏
協賛学年 上高第10回(昭和34年卒)

総会報告
21年度の上野高等学校同窓会総会が、昨年10月18日上野フレックスホテルで開催されました。20年度の事業報告と決算報告、21年度の事業計画と予算案が承認されました。記念講演は、「還暦のベンチャー74年の独立系生保の誕生」の演題で出口治明さん(高18回)にお話しいただきました。一般の方々にも講演を聴いていただけるよう総会の前に講演会を設定しました。「保険料を半額にした」と戦後初めて独立系の生保「ライフネット生命」を立ち上げたお話をしました。経験と数字に裏付けられたお話を丁寧わかりやすくお話ししていただきました。若い経営者と出口さんの経験の折り重なる話にワクワクしながら聞かせていただき1時間の講演時間は瞬く間に過ぎてしまいました。懇親会のアトラクションも2年目を迎えて好評で、賑やかな懇親会となりました。著作「直球勝負の会社」日本初！ベンチャー生保の企業物語(ライフネット生命保険社長 出口治明 アイヤモンド社) (事務局)

個人情報保護基本方針
平成17年4月に施行された「個人情報の保護に関する法令」に基づき、三重県立上野高等学校同窓会(以下「同窓会」という)は、三重県立上野高等学校同窓会(以下「同窓会」という)の信頼を確保し、情報の収集をはじめとする同窓会事業を適切に進めるために、同窓会が保有する会員の個人情報の保全について個人情報保護を目的とした適切な対応をいたします。
一、同窓会における個人情報の定義
個人情報とは、個人を識別できる情報で、氏名、住所、電話番号、勤務先、在学学校名、勤務先電話番号、最終学校等の情報を指します。
二、個人情報の利用目的について
同窓会では、お預かりしている同窓会会員の個人情報には、同窓会会則に定める目的の達成に必要とされる諸事業、同窓会からの各種通信文の送付および連絡等、同窓会の運営に役立てる目的のみに利用します。
三、第三者への情報提供について
同窓会では、同窓会会員および三重県立上野高等学校以外の第三者には提供しません。ただし、警察や裁判所等の公的機関から、法律に基づく手続きにおいて照会を受けた場合、会員の行為によって同窓会規約等に反し、同窓会の権利や財産等を保護するため必要と認められる場合および人命、身体・財産等に対する緊急の必要性がある場合は除きます。
四、開示等の請求、その他故人情報に関するお問い合わせについて
同窓会では、保有する個人情報に関し、ご本人又はご本人から委任を受けた方から利用目的の通知、開示、訂正、利用停止又は提供停止のご請求がなされた場合は、法令の定めるところに従い、適切に対応致します。また個人情報の開示のご請求等の場合はご本人確認、身元確認のできるもの等のご提示などをお願いする場合がございますので、左記相談窓口までご連絡下さい。
五、法令等の遵守について
同窓会では、個人情報に適用される法令、国が定める指針その他の規範を遵守します。
六、個人情報の管理について
同窓会では、保管している同窓会会員の個人情報には、厳正な管理の下に、適切な安全管理対策を行うとともに、必要に応じて委託を請じます。また個人情報の業務を外部に委託する場合は、個人情報保護法を遵守し、適切な監督を行います。
七、個人情報基本方針の継続的改善について
同窓会では、同窓会会員の個人情報を適切な保護体制で維持していくために、国の法令等の変更に合わせ、個人情報保護基本方針を継続的に改善していきます。
三重県立上野高等学校同窓会 会長 左橋 佳三(相談窓口)
三重県立上野高等学校同窓会事務局 担当 川上 晃
TEL/FAX ☎五九五一二四一三三三

おたより おたしらせ

第19回上中会総会開催

第19回上中会総会が過日6月6日、



ヒルホテル・サンピア伊賀で開催された。

内保伊賀市長、左橋上高同窓会会長、渡辺上高校長・松岡教頭のご臨席のもと、今年も盛会裏に終了することが出来た。

記念講演では西蓮寺住職別所法山氏(中36回)より「芭蕉の愛弟子服部士芳の話、上中時代の思い出話」の演題で約1時間、語り上手で、有意義なご講話を拝聴した。記念の集合写真撮影後、アトラクションとして日本舞踊・三喜流福紫会の小学1年生から成人まで7名の皆さんが、歌謡曲に合わせて熱演。可愛らしくまた、勇壮、優雅にして華麗な舞に時間を忘れて鑑賞した。

懇親会に入る前に総会永年出席者9名(88歳以上、上中会日より第18号に掲載、出席者5名)には記念品として、額入上高明治校舎の写真が贈呈された。(写真) 年次を追って減少傾向にある会員も今回出席者58名。閉会前には恒例の上中校歌で氣勢を上げ、親睦を深めて、散会となった。(文責 奥友親・上中会副会長・中昭和21人49回)

49回上中昭和21年入学生 第10回同期会報告

我々は旧制上中最後の学年で、3年の5月、学制改革により、地元など夫々の新制中学校に分かれていった。そのため卒業生名簿等がなく、旧友の消息も分からず、在学した証など残っておらず残念に思っていた。約10年前、偶々みた上高同窓会名簿に同じ条件の阿山高女が昭和21年入学生として載っているのに、我々の学年だけが抜けているのが分かった。

有志の奔走、学校に学籍簿が紛失してなかったこと、合格者の発表があった伊勢新聞が見つかったこと等で、よ

最後の五理楽会

本年6月1日、最後の「五理楽会」をグランヴィアホテル京都の京料理「楽粋」で開催しました。気持ちだけは二十歳の乙女のままで、今年傘寿を迎え、体が思うように動かなくなつたので最終回ということになりました。卒業時38名だった五年理科のメンバーも、10名をもちに送り、現在員28名。その半数の14名が東京・千葉・神戸・大阪・名張・伊賀上野から集まりました。担任の黒川義和先生が昨年九十歳で逝去され寂しくなりましたがこの歳でよく集まったと自画自賛です。みんな饗饌と喋り、食べて三時間の宴はあつという間に果てました。

思い出せば昭和23年に旧制最後の阿山高女を卒業以来62年間、毎年欠かさずことなく五理楽会は続いたのです。神谷麗子さん提供の62回のクラス会の記録をみんなで紐解きました。ピッグイベントは昭和61年に指宿でハーブ園を営む宮崎蓉子さんをサンフラワー号で訪ねた2泊3日の旅行でした。戦後の貧しい時に卒業した私たちの初めての修学旅行になりました。

平成5年には苦節40年の伝道の末に、インマヌエル秋田キリスト教会を建立した牧師、杉本宣子さんをお祝いを兼ねて訪問。中尊寺や仙台にも立ち寄り楽しい旅でした。平成7年の阪神大震災の後、阪神在住の友の安否を気遣って、三月に京都

うやく平成18年版に名簿が掲載された。このような経緯のもとで、中学3年で別れて以来53年目の平成13年に第1回の同期会が上野の加寿園で行われ、57名が出席した。この時の記念写真をみると、53年の歳月に皆、夫々様々な感慨が去来しているのではないかと推察された。

以来今年で10回目を迎えた。自動車、電車通、寄宿などと呼ばれたが、約24名で4組あったと思う。クラスや通学路が同じで何等かの接点があった場合が多いが、この10年間で新しい交流も生まれた。

この会は上野の他、大阪や東京でも



都ホテルで一泊して被災をお慰めしました。上野中学の大先輩福持通社長のお計らいできめ細やかなおもてなしを受けました。

平成10年の伊豆半島一泊旅行は群発地震の最中で少し怖かったです。おのほりさんよろしく、六本木ヒルズや表参道を歩き回ったのは4年前のこと、昨年はみんなで東京タワーに昇りました。本当に思い出は尽きません。

これからは健康に留意して、時折は声を掛け合ってミニクラス会ができればと思います。(福森紀子 阿37回)

北陸に集う (高3回)

尋常高等小学校(2年生で国民小学校)6年生で終戦を迎え、旧制中学校・新制中学と振り回され、カバンの中には手作りの教科書や農業実習用の草刈鎌を入れて通学をした思い出が今も強烈である。こうした紆余曲折 悲喜交々を同窓の皆様と語り合い、今日を迎えられたように思う。



さて私共3回生が毎年恒例としてしている同窓会の世話役を、21年度は町中君ほか3名にバトンタッチされ、開催場所を日本開国千三百年祭で期待される彦根方面をメインとして企画検

上野高校昭和25年卒汽車通会

上野高校昭和25年(1950)卒汽車通会は鳥ヶ原駅から通学した連中が幹事となってきて今年も4月4日ウエルサンピア伊賀に元気な男女30人が熱烈な再会を果たした。

今回は60年という還暦を迎えた大いヴェントであり、60年目の純真無垢の青春真っ只中を懐かしむ物語絵巻であった。

当時の上野中学と阿山高女の美少年と美少女は進駐軍の命令によって男女共学の新制上野高校が誕生する以前から、同じ汽車に乗って伊賀上野のお城の下それぞれの学校に通学して



いた運命共同体であった。あの勇壮なD51式蒸気機関車に繋がれた客車で旧制上野中学と旧制阿山高女時代から数えれば新制高校卒業まで6年間を寒い冬も暑い夏も、朝な夕な、西の鳥ヶ原方面組と東の加太柘植方面組がほぼ同じ時刻に伊賀上野駅を発着する関西本線の上り下りの列車から近鉄伊賀線の電車に乗り換えて西大手駅から歩いて通学したものである。

敗戦直後は客車が進駐軍に徴発され、客車がなく貨物列車の真っ暗な貨車に男子中学生と女子中学生が一緒に乗せられたこともあったが、殆ど誰も討を始めたが、「ひこにゃん人気」が今一つ盛り上がり、加えて当時発生していた新型インフルエンザの流行懸念から参加予定者が減少、一事は企画そのものの再検討を余儀なくされたが、幸いインフルエンザが下火となつたことと、参加者の熱意に支えられ実施に踏み切ることが出来た。11月10日上野、阿山を経て一行26名は近江八幡の水郷へ……のどかな手漕ぎ船4艘に

謹厳実直?であったことも思い出す。それが新制高校となって隣の阿山高女の女子生徒(確かグスと呼んでいた)がぞろぞろと入ってきて隣合せに机を並べて共学することになったときの感、恥じらい、胸のときめきは、いいようもなかった。60年目のあの青春の思い出が、お互いの尽きぬ懐かしい思い出となつて時の過ぎるのを忘れ、幹事の制止でようやく来年の次回幹事を柘植、新堂グループに引き継ぐことで締めくくられ、来年の再会までお互いの無事健康を祈って万歳三唱をして散会したのは3時をはるかに過ぎた頃であった。今回は、さらに高尚な話題が上がったことも追記しなければならぬ。それはレーガン元米大統領と日本文学者ドナルド・キーンによる俳聖芭蕉の俳句の英訳紹介と歴史小説風に書かれた単行本「綱吉と芭蕉」の紹介であった。レーガン大統領の話は昭和58年来日し、国会で演説した際に芭蕉の俳句を紹介したときのことである。《章いろいろ各々の花の手柄かな》を英訳して《自由こそすべての人を豊かにする多様性と創造性を育むものである》として天才芭蕉の優れた感性を披露した話とキーン氏の話は60年前の上野高校の学生生活に久しぶりに戻らせて錯びついた頭脳を活性化してくれた。「綱吉と芭蕉」芭蕉の50歳の短い人生と第5代将軍・綱吉の政治とのかかわりあいを描いたユニークな作品で、その本に関わって参加者全員から「戦争と災害に苦しむ世界の子供たち」への救援寄付金が寄せられ、上野高校25年卒汽車通会の高邁な社会貢献精神がいかななく発揮された。(梅田卓中47回)

分乗(写真)、近江牛、寿喜焼、パーテイク、に舌つづみを打ち、湖上の景色を満喫、一路北陸の名湯あわら「まつや千千」へと向かう。夜はお互いに旧交を温め当地の美酒に酔いしれた一夜であった。翌日は「日本海さかな街」「箸のせいわ」では箸作りを体験。今津、木之本、米原を経て18時過ぎ伊賀各地に無事到着。次回の再会を楽しみにしている。幹事一同(高3回)

「上五会」意気壯ん

第5回(昭和29年)卒業以来、すでに55年を過ぎたゴールドレディ&ボーイズは、いつの頃からか二年に一度の開催を頑なに守り続けて、今回は4月26日、大阪で75名の参加。二次会にも3/4が参加、おしゃべり組とカオケ組共にワイワイ、ガヤガヤと元氣。ただ、天に召されたり、体調不良などで参加できないメンバーが増えているのは気が重い。次回は喜寿の年、「上野で！」と再会を約し、全員で「今日の日はさようなら：：また会う日まで」と斉唱した。



上野高校弓道部OB会

平成22年5月2日ヒルサンピア伊賀で弓道部OB会を開催。元顧問の松田武昇先生(上高11回卒)、和田忠臣先生(上高13回卒)をお迎えし、OB会長の豊岡謙示(高11回)さんのもと、久しぶりの同窓会を開きました。

当日は昭和50年代卒業から、平成4年頃の卒業生まで、総勢60人余りが集まりました。中村伊英さん(高29回)や福森和俊さん、辻みさ子さん(高32回)など、懐かしい顔ぶれが揃いました。



高18回生のついで

昨年の同窓会総会・講演会の講師に、わが18回の出口治明君が招かれたため、県内、近県在住のメンバーに呼びかけ、総会と懇親会での出口君を囲む会に40数名が参加した。今や注目の「ライフネット生命」の創設社長として、時の人である同期生と懐かしいひとときを過ごした。

還暦の集い(高19回)

二月六日、ヒルサンピア伊賀でお祝いの会を開きました。来賓の先生方に講義をしていただいた後、出席者それぞれ一言ずつ、60年を振り返って語りました。この年月に皆良い顔になっていました。60年に乾杯です。



バス旅行もお笑い会も(高21回)

定年退職を目前にして、いくら若作りにも励んでみても、顔に頭に、また、外見だけでなく内部からも老いは確実にやってくる。そのうち、10メートル歩いても出かけられなくなってしまう。今のうちにみんなでそろって遊びに行こうということで、近江八幡へ日帰り旅行を計画した。秋の良き日、バス1台分の同級生が集合し、洋食を楽しんだ後、「たねや」のバームクー

10年ぶりの大集合(高32回)

正式に決めていたわけではないが、10年に一度行おうと前回(10年前)話していたような気がする。去年その10年目が近づいてくると私の診療している医院に来てくれている同級生たちが俄かに「来年は同窓会だね」などと言ってくるようになった。その言葉に後押しされた他の幹事にも声をかけ1月2日、上野フレックスホテルで無事開催できた。

お元氣にご出席いただいた先生は10年前と比べると人数が減り、時間の経過を否が応でも感じさせられた。

10年前は旧知の友人同士が一塊になって小さなグループが幾つも出来てしま、あんまり色んな人と交流を持っていないでいたようだったが、今回は時間が経ち交友関係も希薄になったためかさまざま組み合わせで交流の輪が出来てきたことは、驚きであり、喜ばしいことだった。音信不通となる人も多く、今回全国を幾つかの地区に分けてそれぞれ代表を決めその地区内での同級生の動向を把握することになった。これが新たな交流のきっかけになれば幸いである。

催し物として、先生方にミニ授業をしていただいた。(写真) 高校生時代を思い出さず泣きそうになったのは私だけではないだろう。次回も一人でも多くの先生がご健在で出席していただけることを心より祈るのみである。やはりいくつになっても青春時代を思い出させてくれる同窓会は懐かしさ、心地的なものがある。次回回は全員参加を目指したいと思っ



(代表幹事 森田典尚)

東京支部

旧3年生担任を代表いたしましたして、小久保が東京支部の新卒業生歓迎懇親会に参加させていただきました。

当日は今春の卒業生が7名、昨春の卒業生が1名、合計8名が出席しました。卒業生との会話から、東京での一人暮らしや大学生活に戸惑いを感じながらも、勉学、部活動、サークル、アルバイトなど新しい生活に徐々に慣れてきた様子が伝わってきました。今までの学生服やセーラー服とは違い、スーツに身を固めた姿が大人びて見え、成長を感じました。(写真)



名古屋支部

上野高校同窓会名古屋支部平成22年度総会、懇親会が本部より左橋会長様、渡辺上高校長様、事務局川上先生をお迎えして6月26日に盛大に開催されました。講演会をH7年卒46回生の気象予報士の岩名美樹さんに依頼をして貴重なお話を頂き参加者一同大変勉強になりました。(写真) 懇親会ではビンゴゲーム、伊賀のクイズ等で楽しい時間過ごすことが出来ました。



京阪神支部

5月30日(日) 11時より大阪キャッスルホテルで京阪神支部総会が開かれ、43名が参加しました。本部からも左橋会長、渡辺校長ら3名が出席しました。会務、会計報告に続いて、郷土史研究家の北出橋夫さん(高10回)が「芭蕉にとつての『ふるさと』」と題して、講演されました。生誕地争いや伊賀市役所の建て替えなどに触れながら、芭蕉の墓が滋賀県大津の義仲寺にある所以について話されました。その後、懇親会に移り、伊賀に関わる話題等で盛り上がりました。



上野同窓会京阪神支部総会